

江東区の職場・地域、議会などくらし・平和を守る運動をご紹介します。

発行 江東区民報編集委員会
責任者 今井 栄一
住所 江東区亀戸7-39-1-501
電話3648-5155FAX3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/

区民アンケート(江東区議団が実施)
1346通の回答(中間集約7/13現在)

日本共産党江東区議団は、くらし、医療・介護、教育・保育など16項目にわたる「区民アンケート」を実施。7月13日現在、1346通もの回答が寄せられ、その中間集約をお知らせします。

「暮らし向きが悪くなった」は66%。国保負担増反対は「暮らし向きが悪くなった」は3・6%。「住民税増税による負担増の影響が受診・利

用抑制につながっている深刻な状況があらためて浮き彫りになりました。「消えた年金」問題

日本共産党に対して「庶民の声を一番吸い上げてくれる共産党に期待し、願いを託している」

「現政権に対して明確に『ノー』の立場にいる政党として支持する」「共産党が国民のためを思っ

「憲法と私を語るつどい」に参加した。一人ひとりの話にその人の人生を感じ、涙して聞いた。



「年金・医療・介護の改悪・増税するな」炎天下、怒りのデモ=高齢者・障害者・青年も参加

自民・公明政権の庶民増税と負担増

- 05年：老年者控除50万円廃止、年金控除20万円縮小で増税。介護保険改悪
- 06年：定率減税の縮小、高齢者医療費負担増
- 07年：定率減税全廃で所得税も住民税も大增税。
- 08年：後期高齢者(75歳以上)全員から保険料徴収。70~74歳医療費負担1割から2割に

自民・公明政権は、この間の相次いで医療・介護保険を改悪しました。高齢者は病

高齢男性4割、女性5割が収入10万円以下
A子さんは「近所や友人に増税中止署名をお願いするとこれまでになく対話が弾みます。」

増税は『年寄り死ね』というばかり。選挙が終わってからの消費税増税なんて国民を馬鹿にするな」と怒り心頭です。

6月から、住民税増税への怒りの声が区役所に殺到しました。消えた年金、消費税増税、医療・介護改悪など「貧困と格差なくせ」「憲法守れ」の声をひびこせ、「この夏の政治戦は、歴史を変える結果」にしたいものです。

「私には介護保険が改悪された」「要介護1」から「要支援2」に。買い物や掃除をヘルパーさんに頼んでいるけど週3時間しかきてくれない。なんのために保険料を払ってきたの」と話します。

ストップ貧困、消費税増税

日本共産党の緊急福祉1兆円プラン
●高すぎる国保料を一人1万円値下げする
●介護保険の保険料・利用料の減免制度を国の制度としてつくる
●障害者「自立」支援法で押しつけられた負担を撤回する。
●生活保護の老齢加算と母子加算を復活し、母子家庭への児童扶養手当削減を中止する

「憲法と私を語るつどい」に参加した。一人ひとりの話にその人の人生を感じ、涙して聞いた。

来年の「高齢者の保険料徴収医療費負担増ノー」の声を！
江東診療所・吉沢敬一医師
これまで扶養家族だった方を含め75歳以上の高齢者全員に年間7万5千円(全国平均)もの保険料が年金から天引きされます。保険料を払わないと保険証を取り上げられ、医療費は全額窓口払い。お金が無ければのちまでとられてしまう。また70~74歳の医療費負担は1割から2割になります。来年4月の後期高齢者医療制度は撤回しかありません。夏の政治戦で「ノーの声を」と語ります。

「私を語る」という企画である。すべての人が様々な人生を持っている。それを語ることで理論だけでなく共感が深まる。無数の小集会で語り合えば、相互理解がさざ波のように広がるの確信をもった▼もう一つは、くらし、商売、働き方、いのちなどあらゆる面から憲法の大切さが語られたが、改めて「基本的人権や民主主義、男女平等など現行憲法のすべての条項を守るため、全力をあげてたたかいます」(日本共産党の参議院選挙十二の重点政策)の大切さであり、また、こうした政策を掲げられる党への誇りである▼「語るつどい」を一過性のものとせず、憲法問題を参議院選挙の一大争点として大いに語りたいたいと思っ

平和・くらし風土記 ⑩

石川島労働者の不屈のたたかい 「たたかってこそ明日がある」

① レッドパージとのたたかい

米軍占領下の1948年、ソ連との冷戦に入ったアメリカは、対日政策を転換して日本を反共の防波堤とします。49年吉田内閣のもとで労働運動や民主運動を弾圧するために、日本共産党員とその支持者を職場から追放するレッドパージが強行されました。全国で4万を超える人が思想・信条を理由に生活権を奪われ、石川島重工では42名を職場から追放しようとした。

石川島の労働者は、これを「労働組合への弾圧」ととらえ、組合員の全員投票で首切り反対方針を決めました。しかし右派が多数派の上部団体は全造船労組大会でその方針を否定、造船各社のレッドパージを容認しました。

会社は、それまで回答をしぼっていた1950年の年末一時金を出す条件で、42名のレッドパージを呑むように迫ったのです。



石川島の労働者は、これにたいして60日間たたかい、最後には組合員の全員投票で受け入れましたが、この裏には会社提案を呑むように策動した反共右派の存在がありました。しかし、このたたかいで1000人を超える労働者が、最後までレッドパージを認めませんでした。

このため反共右派は、その後も労働者のこうした気分を無視できない状態がつづきました。

江東の教育を考える

押しつけられた「教育改革」



連載 教育特集 ③

05年3月、江東区教育問題懇談会は「学力向上」「驚き」などをねじり、「一年間を前・後期とする二学期制を提言しました。その後、江東区立学校二期制検討委員会は「教育改革」の一環として、二学期制導入を推奨しました。

矛盾だらけの二学期制

今年度から区立幼稚園、小・中学校に二学期制が導入されました。23区中で全区的にこの制度を採用しているのは、江東区以外では6区だけです。

子どもたちは8月に3週間ほどの夏休み。8月第4週から暑い中で勉強。10月中旬で前期が終わると、短い秋休み後から後期に入るといふ学校生活を送ることになりました。

検討委の報告によると、二学期制は授業時数を増やし、評価の正確さや長い休業日による学習の中断を補うなど、メリットを列挙しています。

しかし、「改革」が先にありきで、国や他の自治体の動向、都立高での二学期制などを視野に入れていたことも明らかです。「明治以来定着している三学期制は、日本の気候風土に適した制度であり……決して三学期制を否定するものではない」といつつも、学習指導要領に固執せざるを得ない立場が窺えます。

子どもと教職員の創意を生かす施策を

子どもたちの創意や能力を生かす楽しい学校行事を切り詰めたり、子どもたちや教職員の自由な体験や研修を束縛して、ゆとりも季節感もなく、教育現場を省みない施策ではないでしょうか。

足立区は05年度から、小学2年から中学3年までの全児童、生徒を対象に学力テストを実施。各学校の平均点や順位を公表しています。

足立区教委「教育改革」の弊害

トップの成績だった小学校で、前年度の問題を直前に反復練習させ、試験中には指さして誤答に気づかせるなど不正行為がありました。その上3人の障害のある児童の答案を除きました。他にも13小学校で16人、4中学校で5人をテスト

の対象からはずしてしました。また、問題用紙をコピーして事前に練習させていた学校も3小学校、1中学校あったことも判明しました。足立区教委は16日、記者会見で学力テストの不正を明らかにし、第三者による検討委員会を設置。

自主的な

江東区教育行政を

学力テストの順位公表や成績による予算の傾斜配分などを見直す考えを示しました。設置。テスト参加を選挙公約した市長を市教委が説得したのです。

4月の全国一斉学力テストに際し、江東区の教組や新婦人が、このテストへの不参加を要請。参加するとしても、子どもに氏名ではなく、番号を記入させるように交渉しましたが、「決まっていることだから」と拒否されました。

ちなみに、23区で氏名記入させたのは、江東、荒川、品川の3区のみでした。

犬山の教育行政の実績

愛知県犬山市は、学校の序列化や過度の競争を招くとして、学力テストを拒否

05年から同市は学校裁量で少人数学級を実現。授業にグループ学習を取り入れて、「学びあう力」「生きる力」を育てています。これからの地方教育行政のあり方を示唆しています。東京でも、6月28日足立区の教育長は小学校低学年の少人数学級の実施を、学級編成権をもつ都教委に要請すると言明しました。

(おわり)

ご感想をお寄せください
FAX 3648:5137